

2026年3月5日（木）  
Charleston Conference Asia 2026 参加報告会

# Charleston Conference Asia 2026 参加報告

**石崎 睦**

（北海道大学附属図書館／国立大学図書館協会資料委員会作業部会）

m.ishizaki@lib.hokudai.ac.jp

# 本日の報告内容

## 1 はじめに

自己紹介

参加したセッション

## 2 **Preconference Workshop**

Preconference Workshopとは

Preconference Workshop Course 1

## 3 振りかえり

# はじめに

## Introduction

# 自己紹介

氏名

いしざき むつみ  
石崎 睦

所属

北海道大学学術情報部 図書館企画課 図書受入・目録担当

関心

資料の保存管理全般 …デジタル化、メタデータ整備

## Charleston Conference Asia 2026 参加の目的・動機

国際会議は初参加

- アジア・太平洋地域におけるオープンサイエンス推進の取組みへの関心
- 出版社・ベンダーが提供する最新サービスの把握
- 地域や所属を超えた連携のあり方、その糸口をつかみたい

# 参加したセッション

1/26 (月)

Preconference Workshop Course 1: The Future is Open Scholarship

OS全般

Preconference Workshop Course 6: Level Up Your SciComm

サイエンスコミュニケーションカ

Sponsored Session: De Gruyter Brill Focus Group – Subscribe to Open: Libraries Leading the Way

出版モデル

1/27 (火)

Opening Keynote: Asia in the Climate Change Landscape

OS全般

Regional Trends and Global Connections: Shaping Collections Strategies in Asian Universities

アジアのOS動向

Global Equity in the Shift to Open Access: A Focus on the Asia-Pacific Region

出版モデル

The Tie that Binds: The Importance of Open Metadata in the Developing Open Ecosystem

データ管理

Keynote: India's ONOS and beyond: Equitable Access to Knowledge Resources

アジアのOS動向

1/28 (水)

Keynote: Strategies and Practices of Library Alliances in Building an Equitable Knowledge Ecosystem

アジアのOS動向

The Pulse of AI in Academic Libraries

生成AI関連

Charleston Trendspotting Initiatives

学術情報流通のトレンド把握

A Decade of Open Data: Insights, Impact, and the Path Forward for Asia

データ管理

Closing Session

会議総括

# 参加したセッション

1/26 (月)

Preconference Workshop Course 1: The Future is Open Scholarship

OS全般

Preconference Workshop Course 6: Level Up Your SciComm

サイエンスコミュニケーションカ

Sponsored session: De Gruyter Brill Focus Group – Subscribe to Open: Libraries Leading the Way

出版モデル

1/27 (火)

Opening Keynote: Asia in the Climate Change Landscape

OS全般

Regional Trends and Global Connections: Shaping Collections Strategies in Asian Universities

アジアのOS動向

Global Equity in the Shift to Open Access: A Focus on the Asia-Pacific Region

出版モデル

The Tie that Binds: The Importance of Open Metadata in the Developing Open Ecosystem

データ管理

Keynote: India's ONOS and beyond: Equitable Access to Knowledge Resources

アジアのOS動向

1/28 (水)

Keynote: Strategies and Practices of Library Alliances in Building an Equitable Knowledge Ecosystem

アジアのOS動向

The Pulse of AI in Academic Libraries

生成AI関連

Charleston Trendspotting Initiatives

学術情報流通のトレンド把握

A Decade of Open Data: Insights, Impact, and the Path Forward for Asia

データ管理

Closing Session

会議総括

# Preconference Workshop

プレカンファレンスワークショップ

# Preconference Workshop

## Preconference Workshopとは

### 概要

- 国際イニシアティブFSCI (The FORCE11 Scholarly Communication Institute) が主催する本会議前の有料ワークショップ
- 1/26 午前と午後に3コースずつ、計6コースが実施
  - ✳️ 当初は4コースずつ、計8コース開催予定だったが2コースが開催中止

### 構成

- 会議開催前週のオンラインセッション (2回)、会議1日目の対面セッション
  - ✳️ アメリカ開催時は対面セッション1回のみ
- 少人数制による講義+ディスカッション+グループ or 個人ワーク
- 事前課題が課される場合も (リーディング、動画視聴、ワークシート記入)

# The Future is Open Scholarship

Explore and Discuss 4 Key Topics in the Evolving Open Landscape

## 未来はオープンスカラシップ

進化し続けるオープン情勢における4つの主要トピックを探索し議論する

### 目的・ゴール

- 今日のオープンスカラシップに影響を与えている重要な課題や機会について理解を深める
- 個人・所属機関でのオープンな実践のための戦略を提供する
  - オープンスカラシップを推進していく上での最近のトレンドや課題について理解する

### 講師

Janet Catterall氏 (Open Access Australasia)

### 参加者

- 大学図書館員 (オーストラリア、中国、台湾、インド、マレーシア、日本)
- 出版社・ベンダー関係者 (中国、フィリピンなど)

# The Future is Open Scholarship

Explore and Discuss 4 Key Topics in the Evolving Open Landscape

## 未来はオープンスカラシップ

進化し続けるオープン情勢における4つの主要トピックを探索し議論する

Topic 1	<b>Bibliodiversity</b>	書誌多様性
Topic 2	<b>Indigenous Data Sovereignty and Governance</b>	先住民族のデータに関する主権と管理
Topic 3	<b>Rights Retention</b>	権利保持
Topic 4	<b>Generative AI</b>	生成AI

# Bibliodiversity 書誌多様性

Bibliodiversity is cultural diversity applied to the world of books. Echoing biodiversity, it refers to the critical diversity of products (books, scripts, eBooks, apps and oral literature) made available to readers. Bibliodiversity is a complex, self-sustaining system of storytelling, writing, publishing and other kinds of production of oral and written literature.

International Alliance of independent publishers. *International Declaration of Independent Publishers 2014*. Paris: UNESCO, 2014.

書誌多様性とは出版の世界における文化的な多様性を意味する。生物多様性（biodiversity）に呼応して、多種多様な作品（書籍、脚本、電子ブック、アプリ、口承文学）が提供されている状態を指す。書誌多様性は、口述、執筆、出版などの方法で生み出された口承・文学作品から成る、複合的で自己持続的なシステムといえる。

キャスリーン・シアラほか（著）南山泰之ほか（訳）「学術情報流通における「書誌多様性」の形成に向けて一行動の呼びかけ」2020年5月

**Bibliodiversity = 学術情報流通における多様性**

→ 立場や見解、研究方法、言語、資金モデル（出版モデル）、出版フォーマットなどにおいて多様性が確保されていること

## 背景

- 伝統的な学術情報流通の構造への批判

画一的かつ限定的な資金（出版）モデル、英語の優位性、少数のグローバル企業への基盤とサービスの集中、計量書誌学的な指標に基づいた評価への偏重

## 他セッションで取りあげられた書誌多様性に関する取組み（中国）

### OpenSign（清華大学、2024年）

- 中国語論文を含む1千万超のOA論文の機関横断的な検索・フルテキスト閲覧ができるプラットフォーム

### Open Journals Hub（香港中文大学、2026年）

- 人文社会科学系バイリンガル（英語・中国語）ダイヤモンドオープンアクセスジャーナルのプラットフォーム

### Open Books Hong Kong（香港中文大学・香港城市大学・香港大学、2024年）

- モノグラフ（学術単行書）のOA化を進める3大学の図書館と大学出版社による共同イニシアティブ
- 2024年に人文社会科学分野の中国語モノグラフ9冊をOA化し公開（現在は60冊以上の閲覧が可能）

✓ 中国語文献も収録

→ 書誌多様性の促進

✓ プラットフォームの集約化

→ 発見可能性とアクセシビリティの向上

# Indigenous Data Sovereignty & Governance

## 先住民族のデータに関する主権と管理

Indigenous Data Sovereignty is a global movement concerned with the right of Indigenous peoples to govern the creation, collection, ownership and application of their data.

自らのデータの創造、収集、所有、利用について、先住民族自身が主体的に管理し決定する権利、またそれを実現するための枠組み

先住民族や部族市民、土地、資源、文化、共同体に関するあらゆる事実、知識、情報  
(例) 地理情報、学歴、聖地の地図、歌、SNS上での活動など個人・共同体に関する情報

Rainie, Stephanie Carroll, et al. Policy Brief: Data Governance for Native Nation Rebuilding (Version 2). Arizona: The University of Arizona Native Nations Institute, 2017.

### 背景

- 非倫理的な研究活動、西洋中心主義
- 先住民族の視点や合意が欠如した状態での情報公開・利用、メタデータの未整備
- 2007年「先住民族の権利に関する国際連合宣言」(UNDRIP)

## 大学や図書館などでの実践例

### CARE原則の実践

**Collective Benefit**（集団・コミュニティの利益）  
**Authority to Control**（管理の権限）  
**Responsibility**（責任）  
**Ethics**（倫理）

- プロトコル（行動規範・研究倫理規則）の整備・教育  
[AIATSIS Code of Ethics](#)（オーストラリア）、[OCAP®原則](#)（カナダ）など
- 図書館員向けコレクション記述ガイドラインの整備  
[Guidelines for First Nations Collection Description](#)（オーストラリア）
- 利用条件や出所などを示す電子ラベルの活用  
[Traditional Knowledge \(TK\) Labels & Notices](#)  
TK Labels [活用例](#)（アメリカ議会図書館）・Notices [活用例](#)（Fortepan US）



先住民族コミュニティとの対話・連携が必須

「Open for all」モデル（誰にでも制限なく開かれていること）には適合しない

GIDA - Care Principles Slide

<https://www.gida-global.org/care>



# Rights Retention 権利保持

「論文著者が、自身の論文の利用条件を、出版社への「著作権譲渡より前」(prior license) に指定することにより、自身も含めて、論文を自由に公開、再利用等ができる権利を保持しようとする戦略」

船守美穂「即時オープンアクセスを巡る動向：グリーンOAを通じた即時OAと権利保持戦略を中心に」  
『カレントアウェアネス』No.358、2023年12月

- ① 著者が所属機関や研究助成機関に論文の利用許諾を与える
- ② 研究助成機関が助成金の受給者にCC BYなどのライセンス付与を義務付ける

(記載例)

This research was funded in whole or in part by the Wellcome Trust [Grant number]. For the purpose of Open Access, the author has applied a CC BY public copyright licence to any Author Accepted Manuscript (AAM) version arising from this submission.

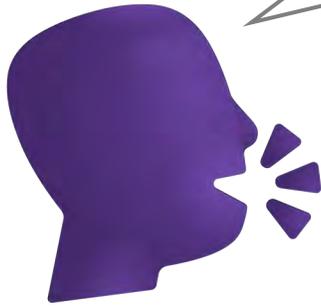
<https://www.coalition-s.org/rights-retention-strategy/>



本稿は [クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 ライセンス \(CC BY 4.0\)](https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/) の下に提供されています。

## アジア・太平洋地域での取組み状況

先行する欧米に対し、アジア・太平洋地域ではまだ議論が進んでいない印象



研究者は自身の研究をすぐに公開したいので、契約内容を吟味せずに著作権譲渡契約を結んでしまう

著作権譲渡契約をしないと論文の発表ができないと思っ込んでいる

研究者側の事情（プレッシャー、昇進etc.）も考慮したポリシーを作るべきではないか

コース受講者（大学図書館員）の声

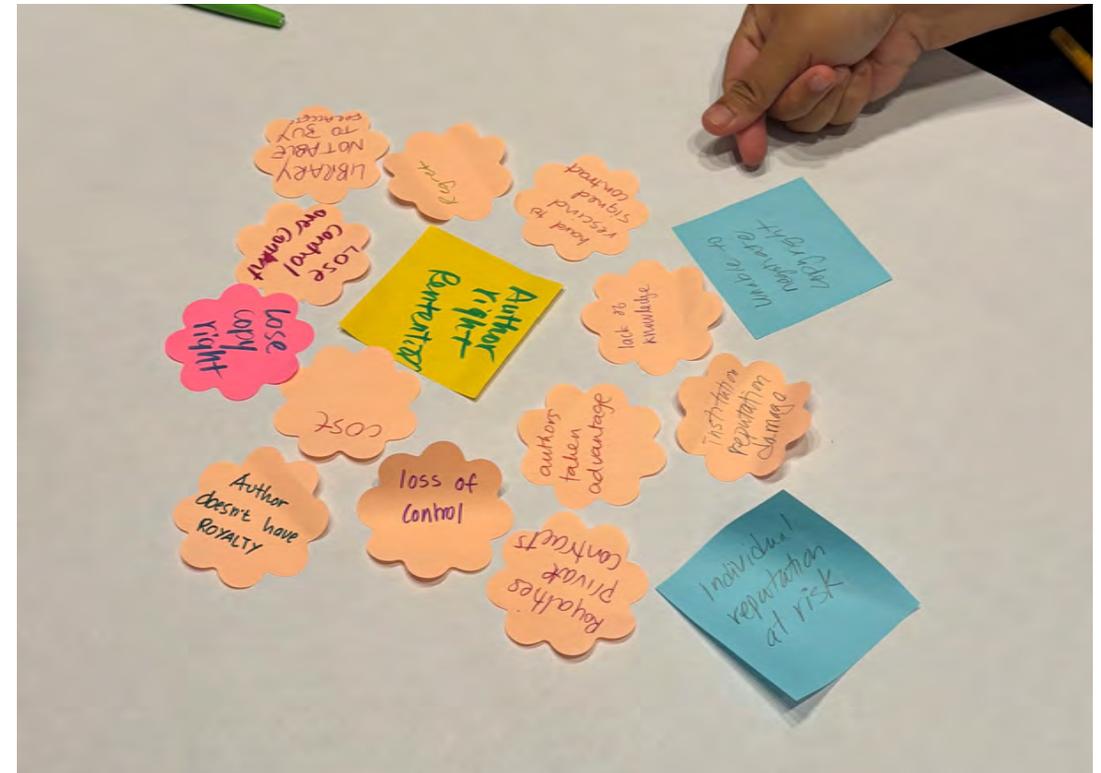
- ✓ 継続的な広報・啓発活動の必要性
- ⚠ グリーンOAに対する新たな課金（Repository license feeやArticle development charge）への懸念

# Preconference Workshop Course 1 – Rights Retention



28日の別セッション

“Charleston Trendspotting Initiatives”でも  
「著者の権利保持」が話題にのぼる



# Generative AI 生成AI

## 学術情報流通に生成AIが及ぼす影響とは？

研究成果の発見性、アクセシビリティ、相互運用性、再利用のしやすさは高まるが…

学術情報のオープン化＝AIにとってもオープン（学習可能）

- AIに向けたライセンスやデータ利用可能性ステートメント（オリジナルデータの入手方法や利用条件を説明したもの）の整備・明示が必要
- 場合によってはAIに対応した新たなライセンスの創設が必要？

学術情報のオープン化≠ニュートラル（中立的）な利用

- AIのモデル開発に使用されているオープンデータは不透明であることが多い
- 著者が想定しない用途・文脈で利用されるリスク
- 正確で偏見の少ない学術情報（論文や図書）を学習用データセットとしてあえて生成AIに学習させることで品質向上を図るべきとの声も  「2026年問題」

 否が応でも“AI-ready”を前提としなければならない

 生成AIに対する姿勢…図書館員は慎重派が多数、出版社・ベンダー関係者はより積極的な印象？

### 「Open Science」という用語、実はあまり使われていない…？

主に自然科学（STEM分野）の量的研究に合わせて形成されてきた概念との批判も

#### Open Research（オープンリサーチ）

- 芸術・人文社会科学をも含むあらゆる学問分野、多様かつ広範な学術活動に適用可能  
→ パフォーマンス、演奏、詩作など
- 西洋発祥によらない知のシステムを包摂し得る

#### Open Scholarship（オープンスカラシップ）

- 芸術・人文社会科学をも含むあらゆる学問分野、多様かつ広範な学術活動に適用可能  
→ パフォーマンス、演奏、詩、教育・学習リソース、授業計画など
- 西洋発祥によらない知のシステムを包摂し得る
- 最も包括的

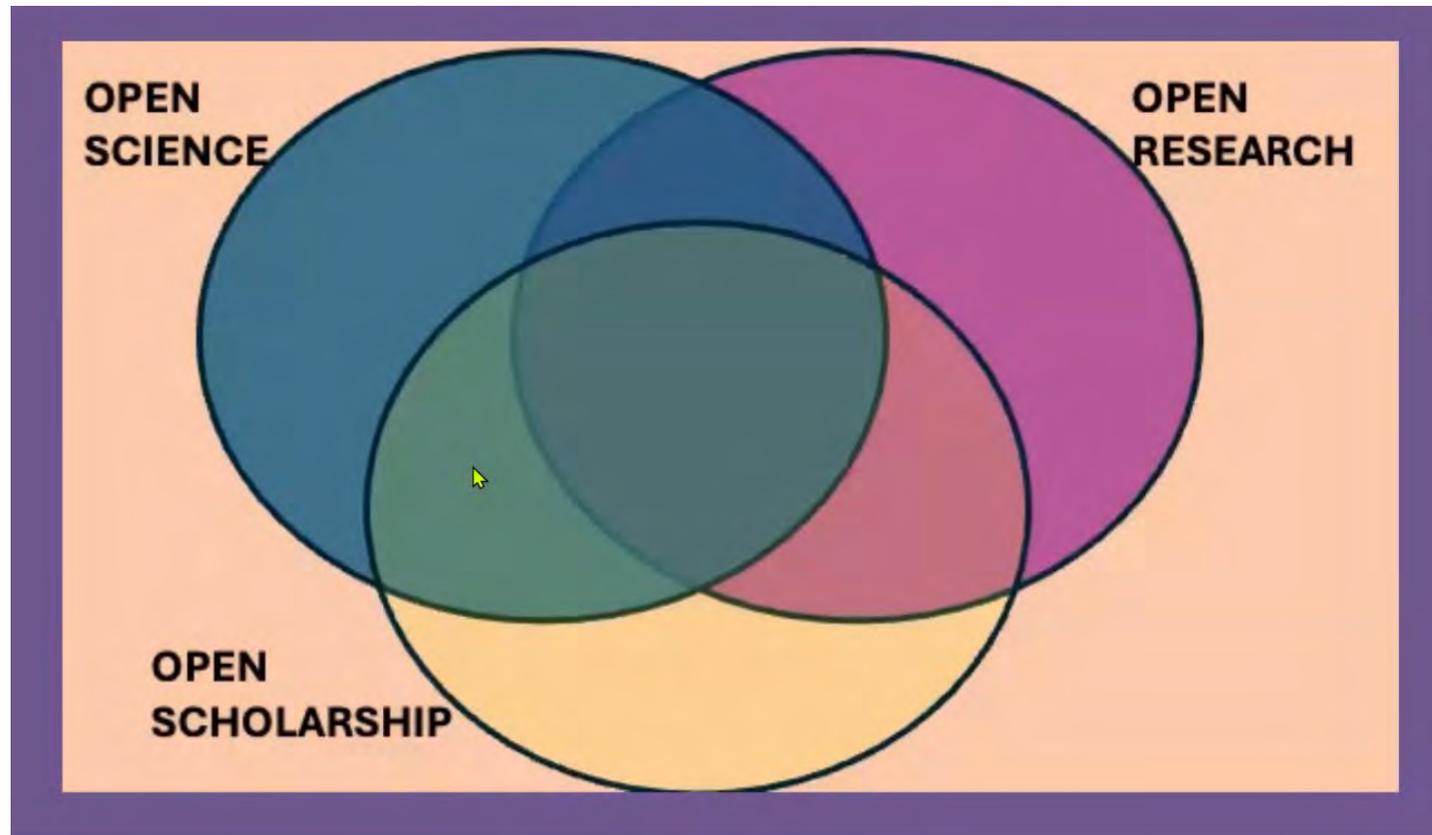
- 他のセッションでは「Open Research」という表現をよく目にした
- 網羅性という点では、Open Scholarship > Open Research > Open Science のイメージ？

＊ ただしそれぞれの概念に対するイメージには個人差あり（次スライド参照）

## Preconference Workshop Course 1 - 番外編

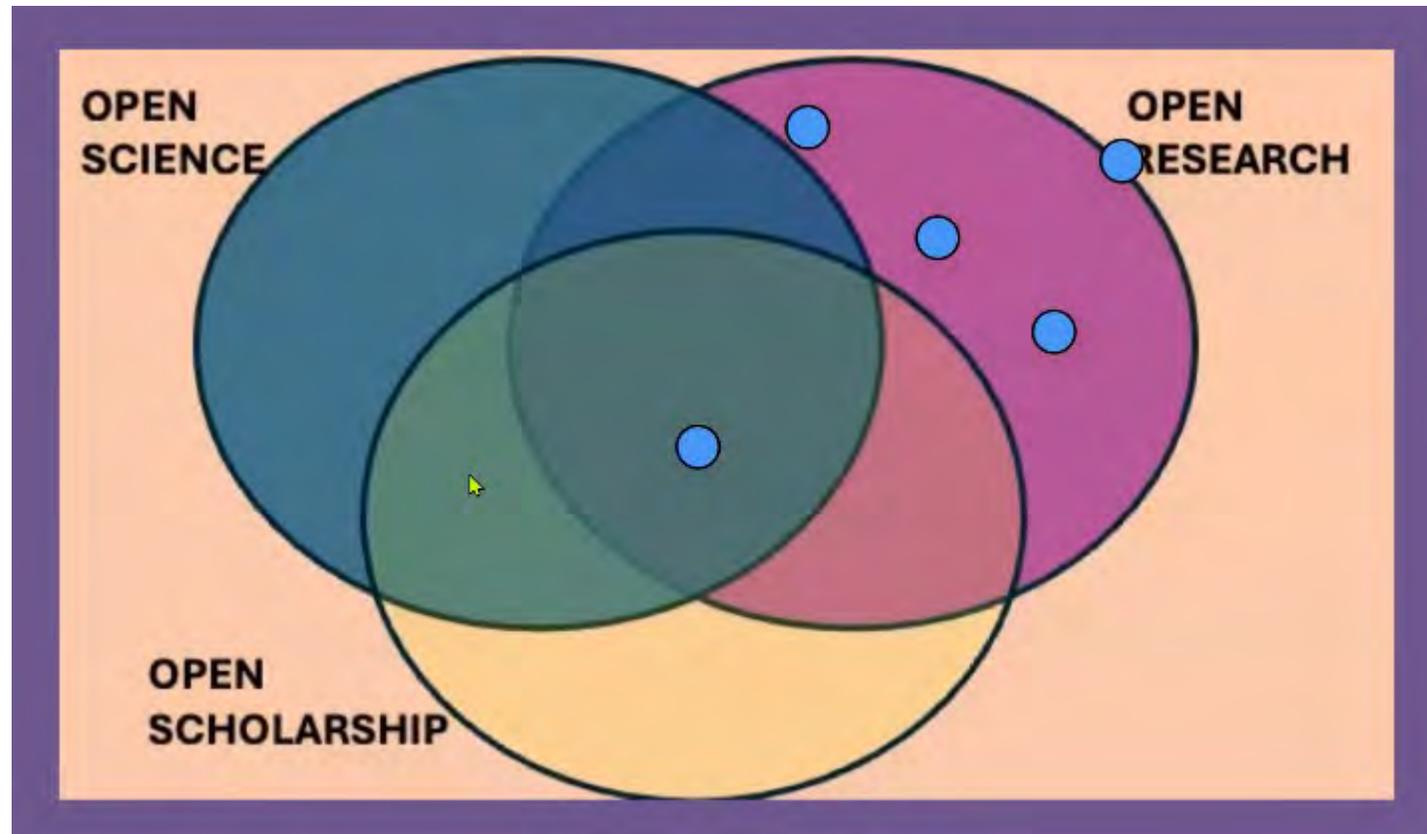
### Open Science, Open Research, Open Scholarshipのイメージは人それぞれ

(例) 「実験結果の再現性・実験の事前登録・元データの共有」という実践が最もフィットするのはどこ？



## Open Science, Open Research, Open Scholarshipのイメージは人それぞれ

(例) 「実験結果の再現性・実験の事前登録・元データの共有」という実践が最もフィットするのはどこ？



\* ちなみに講師はOpen Science (青の部分) をイメージしていたとのこと

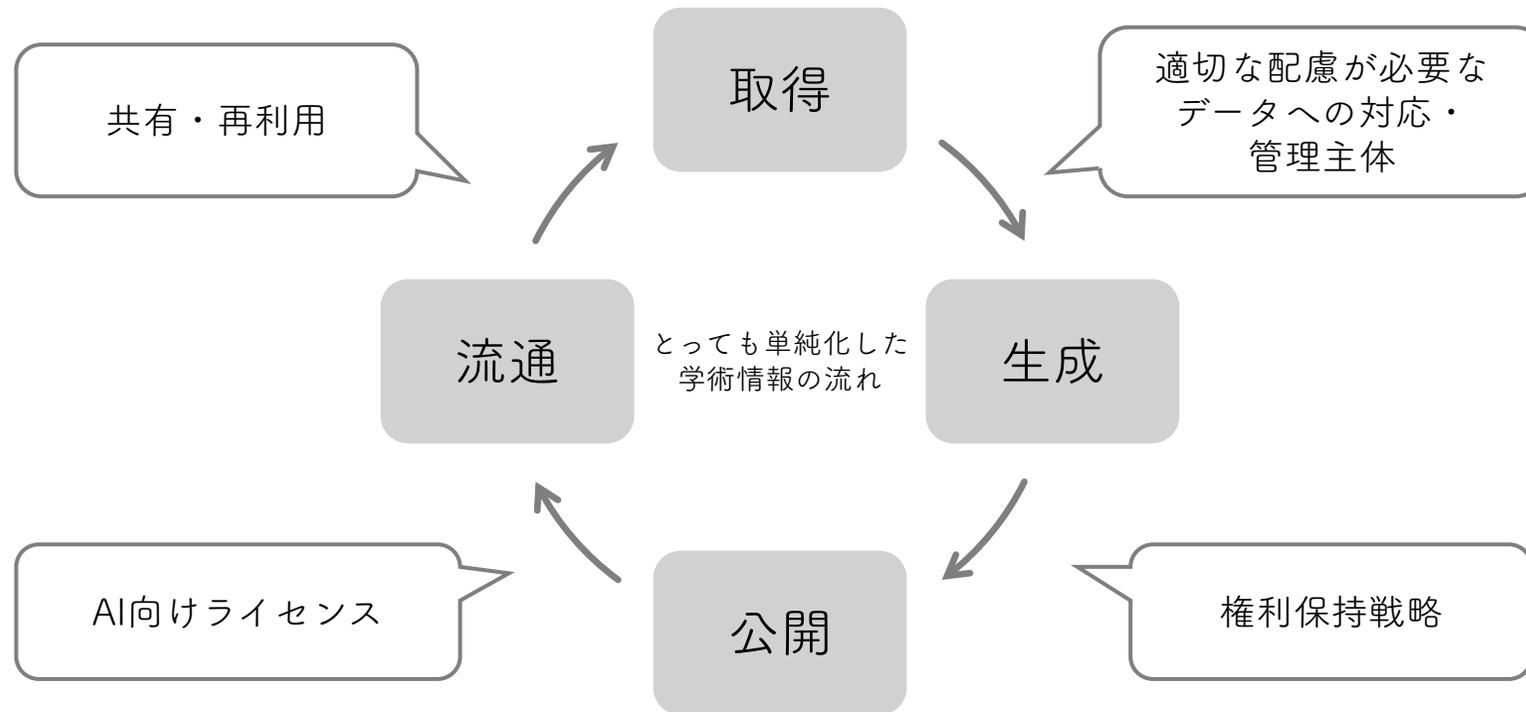
# 振りかえり

**Reflections**

# 振りかえり

## 会議全体を通しての所感（成果と反省）

成果1（学び） すべてオープンにすれば良いわけではない  
ただ単にオープンにすれば良いわけではない という視点



# 振りかえり

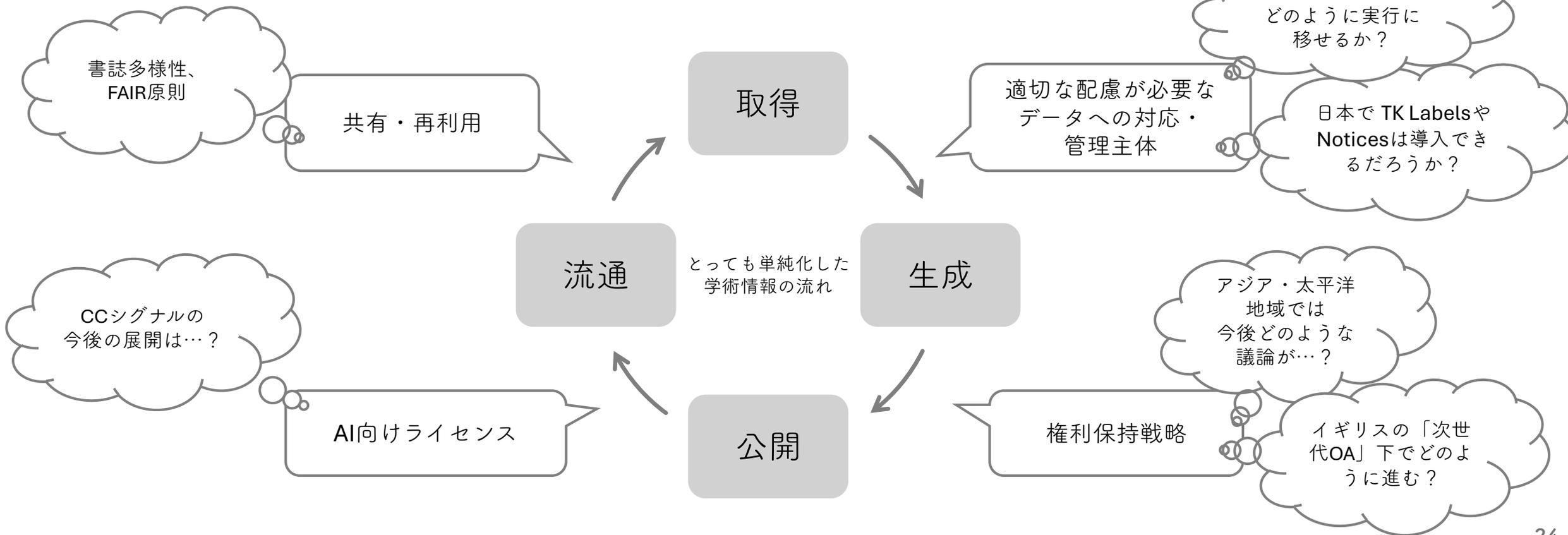
## 会議全体を通しての所感（成果と反省）

さらなる関心・問題意識も  
芽生えた

### 成果1（学び）

すべてオープンにすれば良いわけではない  
ただ単にオープンにすれば良いわけではない

という視点



## 振り返り

### 会議全体を通しての所感（成果と反省）

成果2（学び） 個人間での繋がり・連携は築ける！ という希望



ご清聴ありがとうございました

**Thank You!**